



川中だより

令和7年11月28日（金）発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第8号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

いじめ見逃しゼロ 県民運動

一人ひとりが大切にされる社会をめざして



校長 若月 隆雄

毎年12月4日から10日までは「人権週間」です。

これは、1948年12月10日に「世界人権宣言」が採択されたことを記念して設けられました。「人権」とは、すべての人が生まれながらに持っている **“幸せに生きる権利”** のことです。国籍、性別、年齢、障がいの有無、考え方や感じ方の違いにかかわらず、誰もが尊重され、安心して暮らせる社会をつくるのが大切です。

11月19日（水）には、同窓会の皆様のご協力のもと、3年に1度の「同窓会特別事業」を開催しました。今回は、新潟WBC（新潟車いすバスケットボールチーム）から松川選手と板倉選手をお招きし、ご自身の経験や思いを交えながら、多様性を尊重することの大切さ、どのような状況におかれても挑戦することの大切さについてお話いただきました。

講演のあとは、実際に車いすバスケットボールを体験しました。生徒たちは、車いすの操作の難しさや、プレーを通して感じる連帯感など、**「違いを理解することの大切さ」「挑戦する勇氣、あきらめない気持ち」**、そして誰もが楽しめるスポーツの素晴らしさを感じ取っていました。音楽祭、今回の特別講演会など、川東中学校教育活動への同窓会の皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。

11月15日から26日まで、東京で「東京2025デフリンピック（聴覚に障がいのあるアスリートによる国際競技大会）」が開催されました。大会のビジョンには、「誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会の実現」という願いが込められています。運営の中では、手話通訳や字幕、案内表示など、誰もが安心して参加できるようにするための合理的配慮がなされており、私たち一人ひとりが**「相手を思いやる工夫」**をすることの大切さを改めて感じさせてくれました。

新発田市の教育方針「ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育（令和7年度学校教育の指針）」の中には、人権感覚を高める「人権教育、同和教育」が掲げられています。

その中で特に大切にしていることは、★同和教育の視点に立つ教育の推進★人の心の痛みがわかり、自他を尊重する態度・行動を育てる授業づくり★人権尊重の視点に立った学校経営・学校づくりの3つです。

本校では、全校一斉に「生きるIV（新潟県同和教育研究協議会発行）」を使った学習を行っています。子どもたちは登場人物の生き方や思いにふれながら、「自分や他者を大切にする心」について深く考えています。また、教職員も研修会に参加し、日々の教育活動に人権感覚を生かせるよう努めています。

人権を大切にすることは、学校だけでなく、家庭や地域でも大切にしていけることです。

小さな「思いやり」が、まわりの人の心をあたため、大きな優しさの輪を広げます。人権を守ることは、他の誰かのためだけではなく、自分自身を大切にすることにもつながります。**「自分も大事、あなたも大事」**そんな気持ちを、学校・家庭・地域が力を合わせて育てていきたいと思います。

